

特集

抗 VEGF 治療の進歩：選択と最適化

序 論

飯田知弘*

本号の特集は、抗 VEGF 治療の最新情報です。本邦においては 2008 年に眼科用抗 VEGF 薬が新生血管型加齢黄斑変性に対して発売され、その後、さまざまな疾患に対する適応が拡大されてきました。抗 VEGF 療法は、新生血管型加齢黄斑変性、糖尿病黄斑浮腫、網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫、近視性黄斑部新生血管、未熟児網膜症などの患者における視機能の改善と維持に大きく貢献してきました。長らくラニビズマブとアフリベルセプトの 2 剤が使用されてきましたが、最近では、さまざまな特徴を持つ新規抗 VEGF 薬としてプロルシズマブ、ファリシマブ、高用量アフリベルセプト (8 mg) が登場し、また、後続品としてラニビズマブバイオシミラーが承認・発売されるなど、選択肢が大きく広がってきました。しかし一方で、実臨床においては、どの症例にどの薬剤を使用すべきか、どの投与方法が適切か、他の治療法との併用についてなど、迷う場面も増えてきています。

また、抗 VEGF 薬は、新生血管型加齢黄斑変性や糖尿病黄斑浮腫などの治療において、長期的に継続した投与が必要となることが多く、薬剤費が高額であるため、患者の経済的負担や医療システムへの負荷が大きな課題となっています。最近発売された新規薬剤は、臨床試験において投与間隔を延長できることが示されており、薬剤費は従

来薬よりも高額であるものの、投与回数を減少させることで費用の削減が期待されています。また、バイオシミラーは、既存のバイオ医薬品 (オリジナル製品) と非常に似た構造と効果を持ち、価格が安価になることで、抗 VEGF 薬の治療費用問題に対する有力な解決策のひとつとして期待されています。日本ではラニビズマブのバイオシミラーが既に発売されていますが、海外ではアフリベルセプトのバイオシミラーも登場しており、今後、日本でも承認・発売されることが待望されています。日本では医療費の増大が喫緊の課題となっているため、バイオシミラーの普及により医療経済の健全化が期待されます。同時に、バイオシミラーの導入と市場拡大が進むことで、患者の経済的負担が軽減され、より多くの患者が効果的な治療を受けられるようになることも期待されています。

本特集では、抗 VEGF 薬の特性を活かし、各疾患における治療法の選択、適応、課題について、第一線で活躍されている各疾患のエキスパートの先生方に包括的にご執筆いただいています。また、他の治療法との比較や併用療法についても詳しく解説していただいております。この特集を一読することで、抗 VEGF 治療の最前線を知ることができ

*Tomohiro Iida 東京女子医科大学眼科学教室